

## 2月と言えば？

2月と言えば、きつと誰しも厳しい冬の寒さと思う。また、「ニッパチ」と称してタクシーも含め、商売が低調な月として、敬遠したいのが普通かなと思う。ところが私の場合、2月は楽しみな月である。もちろん自分が生まれた月（2月15日）でもあり、バレンタインのチョコレートにはありつけないとしても、誕生日ぐらいは、家族から祝ってもらえるという、ささやかな楽しみもある。もうひとつ大きな楽しみは、例年2月に武内工業所グループの社員旅行が行われ、私も永年関係者と称して（実際、取引先でもあり、また武内社長とは飲み仲間？の友人でもあるのだが）、この旅行に参加させて貰っている。

実は前回の社員旅行は、2011年の2月の韓国旅行で、今思えば東日本大震災の3週間前の事であった。そして、その月のタクシージャパンのコラムに「良い会社とは？」というテーマ



で、この印象深い武内工業所グループの社員旅行をレポートさせて頂いた。その直後の東日本大震災と、それによる日本社会への社会的、経済的打撃もあり、社員旅行は中止されていたが、武内社長の思い入れもあり、今年はグアム旅行として復活の運びとなった。

が、である。出発日の2月9日（日曜日）は前日から大変な大雪で、交通が大混乱。当日朝7時過ぎ、京成上野駅に参加者がなんとか集合したのに、肝心の京成スカイライナーが全面ストップ！千葉地域に降

## 清野吉光氏のコラム 第63回

## 団塊 耕 志 録



## 清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

## レジリエンス

った雪が、特に酷かったというところもあるだろうが、それにしても首都圏の重要空港に繋がる主要鉄道としては、もう少し備えがあっても良いのではと思う。高速道路も成田付近で閉鎖され、結局はJ Rの成田エクスプレスが午後3時頃から動き始め、急遽東京駅に移動して、とりあえず成田までなんとか移動。しかしグアム便は何便か欠航したために、結局席が確保できず、午後8時ころ、今回の社員旅行は延期と言う事になった。この12時間以上に及ぶ、なんとか旅行を実施したいと言う武内社長と幹部の人達の努力と気苦労は、本当に大変なものだったと思う。雪による交通の混乱が原因であるとは言え、人一倍社員の人の気持ちを気遣う武内社長の気苦労は、あらためて組織のトップでいる事の大変さを実感させるものであった。

結局、その日は急遽確保した千葉のホテルに泊まり、明け方近くまで、慰労・懇親会が行われ、翌日は希望者のみ浅草の観光に切り替

えられた。結果的に延期になってしまったとは言え、社員の方には納得のいくイベントでなかったなと思う。そして自分自身にも、こうした想定外のアクシデントが起きた時に、なかなか出来ない事ではあるが、組織の長は如何にふるまうべきかと言う点で、非常に勉強になった。

## レジリエンスが必要！

最近、国土強靱化という観点からレジリエンス（復元力、耐久力）という言葉が良く聞かれる。特に日本社会は平時には社会的インフラが非常に充実し、安全・便利・快適この上ない社会だが、東日本大震災をはじめ、想定される東南海、南海大地震、さらに首都直下型大地震が起きた時の、社会的な耐久力・復元力を、それが起きる前から如何につけておくかという事が焦眉の課題となっている。

ところが大地震以前の、今回の2週に渡る大雪で交通機関が混乱し、社会生活に影響が出てしまうよう

は、本当に心もとない。交通事業者からすれば、雪国ならいざ知らず、年に1回もあるかどうかわからない大雪のために、あらかじめ設備を投資するのは大変かも知れないが、やはりレジリエンスに対する投資を是非真剣に考えて欲しいと思う。タクシー業界でも実は同じ問題が問われている。今回、静岡の地元のタクシニーに乗った時に、乗務員さんが、「雪が降ったら休む！」と言っていた。気持ちよくなるが、それこそ「公共交通」なのだから、そのようなときこそしっかりと準備をして、移動に困難をきたして困っている利用者の為にフル稼働してもらいたいものだ。実際、弊社の子会社が運営するタクシニーサイトでは、今回の2回の大雪の時には、普段一日3万6千ほどのサイトへの訪問者数が、2月8日（土曜日）には19万、翌週の2月15日には21万5千であった。それだけタクシニーへの「必死な」需要があったという事だと思ふ（ちなみに私も成田空港で、タクシニーサイトにア

クセスし、タクシニー会社を検索して、電話をかけまくったが、車はあるが、乗務員さんがいないと断られたケースもあった。実利的にみれば、会社も乗務員さんも、少々の売上アップよりも、事故やトラブルが起きやすい日は避けた方が良いという判断は、正しいかも知れない。しかしそれでは、社会的なレジリエンスは保てない。そうした危機の局面でも、如何に事故やトラブルを防ぎ、社会的インフラとしての足り公共交通を提供していく心構えと準備が問われるのだと思うのだが。また実は、日本の多くのタクシニー事業者と乗務員さんは、そうした心構えと意志をすでに持っていると感じたい。

**増田社長の急逝：**

トマト交通の増田社長が1月14日急逝された。1月9日の正月の挨拶に御伺いした時に、体調を崩して出



社していないとお聞きし、あのお元氣な増田社長がどうした事かと危惧していたのだが、志半ばにして亡くなってしまった。70歳代半ばであるのにも拘わらず、非常にお元氣で、タクシニーの品質を厳格に問い、徹底し、またベストワンウェイという流し経路指示システムを開発し、驚異的な実績を出されていた。その仕組みを、自社のみならず、業界に本格的に広めようと努力をされはじめた矢先であった。木原常務をはじめとする、残されたトマト交

通の幹部、乗務員の方が、増田社長の遺訓を継いで、是非社業を発展させて頂きたいと思ふ。

**小堀社長にもさよならを：**

もう一人、御別れを言わなくてはならない方ができてしまった。東京タクシニーの小堀社長が49歳の若さで亡くなられてしまった。自分にとっては、タクシニー会社の社長さんというより、トラモンド東京支局の若手記者の小堀さんという思いが深い。タクシージャパンの高橋社長の愛弟子で、いろんな場面で、その硬骨漢ぶりが印象に残っている。タクシニー業界を愛し、タクシニー会社の社長まで務めた小堀さんが49歳の若さで亡くなってしまうのは、残酷な事だ。確かに人間の死は避けられない事だとは思ふが、しかし若くして死ぬのは無念で、やりきれない。小堀さんの志を、少しでも継げたらと思ふ。

増田社長、小堀社長のご冥福を祈ります。  
(2014年2月20日記)

**タクチャージ**  
スマートフォンの充電器

**スマホでタクシー呼んだらタクチャージで充電**  
docomo, au, SoftBankの各種携帯電話・スマートフォン・タブレットに対応  
iPhone 3G・4S・5, iPad mini, iPad, iPod touch・nano

03-3834-8352